

## 父の日に思う「男女平等」

黒田 朔



「父の日、おめでとう」とメールが届く。今は土曜日、どれだけ届くのか分からない。ただ、分かっているのは、「母の日」に届くメールやカード、ギフトの数では比べようもない。常に「父の日」惨敗である。子どもが抱く両親に対する思いの素直な表れでとして納得、父親の一人として争うつもりはない。

ところで、先週の新聞に「男女平等のジェンダーギャップ」についての報告では日本は調査対象の148か国中、118位だとあり、更に、「世界の男女の完全な平等の実現に123年かかる」とあった。日本での女性の進出はもっと、もっとあって良いし、男性として応援したいと思う。しかし、政治家や企業の社長などの人数の国別比較が平等であることの指標となっているようだ。しかし、それぞれの分野で男女の数が半々になることが世界が目指す「男女平等」なのか、「男女の完全な平等の実現」とはいったい何を目指しているのだろうか。

「神は二人の人間を創られた」のではなく、聖書には「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。」（創 1:27、28）今一度、神様が『非常のよかった』とお喜びになったとある意味を考え、味わいたい。

父の日、母の日には届くカードやギフトの数比べではなく、「男は男として」「女は女として」良く生きているか、「父として」「母として」子供を愛し、育て、子供たちから、「父の日、ありがとう」と祝ってもらいたいものである。

「主を恐れることは知識の初め。愚か者は知恵と訓戒を蔑む。わが子よ、父の訓戒に聞き従え。母の教えを捨ててはならない。」（箴言 1:7、8）